



第三者コメント

三重大学学長補佐（環境ISO担当）

朴 恵 淑



三重県が取り組んでいる環境対策について、環境マネジメントシステムの有効な適用による客観的評価を行い、成果と課題を明記した平成20年版環境報告書は、好感をもたせる仕上げとなっています。

低炭素社会構築のための地球温暖化問題への取組や、循環型社会に不可欠なごみ減量、自然共生社会創出のための三重の自然保護や食文化に至る分野まで多岐に渡って網羅されています。限られた紙面にさまざまな工夫をこらし、豊富な内容と質の高いものに作り上げた編集力は、よりよい三重の環境をめざす三重県の環境報告書のさらなる進化への原動力となると思います。

特に、数値目標に対する達成度への評価を表す様々なキャラクターの起用は、子どもから大人に至る全県民への有効なアピール手法として注目したいものです。また、目標未達成分野において、その要因分析が行われていることから、次年度の取組に大きなヒントとなるよう工夫されています。さらに、RDF貯蔵槽爆発事故以降の安全性の確保や産業廃棄物不適正処理事案への対応など、負の側面に対して透明性のある客観的な記述がなされていることから、三重県のISO14001認証取得は、持続的発展を生み出すきっかけとなり、環境報告書は有効なアピール手段となっていることがわかります。ただ、欲をいうなら、究極のアピールとなる表紙において、本環境報告書のハイライトや強調したい部分が一目で分かるような創意工夫を願いたいものです。

三重県と三重大学は、平成17年度からそれぞれの環境報告書に対する相互評価を行っています。平成18年度には環境省主催の第10回環境コミュニケーション大賞において環境報告優秀賞をアベック受賞しました。両方の受賞理由の一つとして、環境報告書への相互評価システムが高く評価されています。さらなる発展や進化につなげるため、三重県と三重大学との継続的かつ発展的相互評価制度に多いに期待します。